

情報ボックス

令和元年度第三回目の情報ボックスです。今回は「支援機器」についてお伝えします。

支援機器とは？

障がいのある人が自立したり、活動に参加したりする際に生じる困難さを補う技術を「アシスティブテクノロジー」といい、その「アシスティブテクノロジー」において活用される機器のことを支援機器といいます。支援機器にはさまざまな種類がありますが、今回はコミュニケーションツールについて紹介したいと思います。

AAC（拡大代替コミュニケーション）

※Augmentative and Alternative Communication の頭文字をとったもの

障がいに合わせてさまざまな用具や機器を使い分けることで、「見る・聴く・話す・読む・書く」などのコミュニケーションの幅を広げることができます。タブレット・PC等はコミュニケーションツールとして活用されることも多く、打ち込んだ文字を読み上げることや音声とともに絵カードを表示できるアプリが数多く開発されています。コミュニケーションツールとして使用する場合、児童生徒に合わせて写真・絵・文字等のどれが理解しやすいか、どのような場面で使うのか等の検討をすることも必要です。また、タブレットのタッチ操作が苦手な児童生徒には、スイッチをタブレットに接続することでほとんどの操作を行うことができます。

ビッグマック

【大きな動きで操作ができる】



- 一つの音声を最大20秒間録音・再生することができる。
- 再生方法は本体上部の大型スイッチを押しても、外部スイッチを接続し、そのスイッチを押しても再生できる。
- 音量調節ができるほか、外部スピーカーを接続してさらに大きな音で再生することも可能。

クイックトーカー



【音声録音の機能がある】

- 複数の音声を最大30秒間録音・再生することができる。
- 触れるごとにメッセージが順番に再生される。
- 再生は表面のセンサーに手をかざす、触れることでできる。

ドロップトークアプリ



【画像シンボルや音声でサポート】

- 基本語彙313語の視覚シンボルと、それに対応した日本語音声を搭載している。
- 目的の画像をタッチして音声を出す「単語モード」と、いくつかの画像を順番にタッチして並べて、文章のように音声を出す「文章モード」がある。
- 基本語彙だけで足りない場合は、簡単に新しいシンボルを作成し、登録することができる。

トーキングエイドアプリ



【言葉や文章を作成し、音声として再生できる】

- 50音配列のキーボードを押すことで言葉や文章を作成。
- 作成した言葉や文章をメールで送信することができる。また、受信したメールを音声で読み上げて確認できる。
- さまざまな機能があり、利用する人の特性に合わせて設定することができる。
(例：語句登録、スイッチ操作等)

今回は「支援機器」についてご紹介しました。次回は上記を使った実践事例編を紹介します。